

No.213
2025年11月1日
滋賀県竜王町議会

りゅうおう

議会だより

子どもたちの歓声で
まちの前進

- 定例会報告 P2～ 名誉町民条例の制定
- 委員会活動 P6～ 災害発生時、議員の対応は
- 一般質問 P9～ 「まちづくり住民懇談会」での意見への対応は

9月
定例会

令和7年度 補正予算と条例制定

一般会計 **7664万円**を追加、
予算総額 **123億7620万円**に



発達支援や不登校・引きこもりの相談支援が期待される

町発達支援センターに福祉ステーションを改修

子ども療育事業所「たっぴー」
 などが、現在の公民館から令和8
 年4月に移転する。
 補正額2302万円

議員の質疑

問 屋根の漏水や断熱対策はどう
 か。

答 最近、雨漏りが発見されたた
 め改修する。また、断熱材につい
 ては、建物の劣化防止や利用者へ
 の安全安心対策として増額補正す
 る。



利用者サービスの向上を目指す図書館

図書館システムの更新に伴い、
 利用者サービスとしてシールに
 なったレシートを手帳に貼る「読
 書手帳」などの機能が導入される。
 補正額1060万円

(図書館システム機器購入)
 読書手帳で貸出

9月定例会の
あらまし

9月定例会が9月2日から9月29日までの28日間の会
 期で開かれた。

本会議2日目に、条例9件、補正予算4件を可決し、
 本町教育委員会委員の任命、本町公平委員会委員および
 本町固定資産評価審査委員会委員（2名）の選任につい
 て同意した。

なお、令和7年度一般会計補正予算、令和6年度一般
 会計及び特別会計等決算認定9件を予算決算常任委員会
 に、請願1件、条例2件を関係の常任委員会に審査を付

託した。

本会議3日目に、一般質問を行い11議員が町政をただ
 した。

***P9以降をご参照ください。**

最終日に本会議を開き、本会議2日目に付託した14議
 案すべて、そして本日追加提案された工事請負契約の締
 結1件、教育長、監査委員および人権擁護委員の人事案
 件5件を原案通り可決・承認および同意した。

名誉町民条例の制定

目的

社会の発展に卓越した功績があり、広く町民がまちの誇りとして敬愛する者に対し、竜王町名誉町民の称号を贈り、その功績を称える。

議員の質疑

問 名誉町民の功績を広く公表することも重要だが、その他、小中学校の児童生徒など教育現場への情報共有等について、どう考えているか。

答 広報紙への掲載だけでなく、その功績を振り返る展示の実施等、多世代に向けて広く周知を図っていく。



学童保育所の設置・管理に関する条例

現在の学童保育所は「業務委託」により運営している。新竜王小学校の開校に伴い、指定管理者制度の導入に向けて必要な条例上の改正を抜本的に行う。



イメージ図

議員の質疑

問 指定管理する条項を設ける理由は何か。

答 公の施設に関しては、地方自治法の規定により指定管理制度で管理することができるので、今後、選択肢の一つとして条例を整備する。

町地域防災計画の修正

能登半島地震からまもなく2年を迎えようとしている。本町においても、いつ地震が発生するかわからない。本年8月、町地域防災計画の一部が修正追加されたので、主な点を紹介する。

- ① 要配慮者への施設整備では、外国人に配慮した「やさしい日本語」「多言語情報提供」など
- ② 応援職員の受け入れでは、「竜王町受援計画」を策定
- ③ 避難所の運営では、生活環境対策や女性や子ども等への配慮

(例)

キッチン
カー、簡
易ベッド、
災害用ト
イレ、移
動電源車
など



段ボールベッド

活かされた？

令和6年度 決算



ワンストップ化で便利になった庁舎1階

総合庁舎 維持修繕事業

令和6年度決算は、9月12、16、17日の3日間にわたり、施策や事業などのチェック、次年度予算へ反映するための今後の課題などについて予算決算常任委員会で審議した。

令和6年度は、竜王町コンパクトシティ化構想に基づく中心核整備として、

交流文教ゾーン造成工事、新竜王小学校建築工事、総合庁舎1階事務室等改修工事や物価高騰などの対策を実施した。今回は、物価高騰対策、改修・建築工事・まちづくり活動支援事業などを中心に紹介する。

住民対応窓口のワンストップ化を行い、来庁者の利便性向上など住民サービスの拠点としてふさわしい庁舎となるよう改修を実施した。また、東側便所等の改修工事を実施した。

改修工事費
2億4954万円



ドラゴンハットのトイレ

総合運動公園施設 整備（改修）工事

- ・管理棟トイレの改修
 - ・ドラゴンハット屋根の一部改修
 - ・採暖室（お風呂）の改修
- 改修工事費1億7533万円



支援団体写真（弓道）

支援団体

- ・ポッケ 歌声喫茶の開催
- ・竜王町弓道会 竜王町の弓道の魅力発信事業
- ・幸せ受け愛隊 若者の出会いの場づくり等
- ・ひよっこりひょうたん島 町内のいいところ再発見ツアー

まちづくり 活動支援事業

豊かで活力あふれるまちづくりを進めるため、さまざまな分野で町民が自発的・主体的に取り組む活動に対して補助をした。

補助金40万円

私たちの税金、どう

令和6年度一般会計および各特別会計等決算額

(単位：万円)

会計名	歳入		歳出		議決の内容
一般会計	112億1730		107億2028		賛成多数により可決
国民健康保険事業特別会計 (事業勘定)	10億6417		10億4935		賛成多数により可決
国民健康保険事業特別会計 (施設勘定)	医科 歯科	278 5853	医科 歯科	278 5475	全員賛成により可決
学校給食事業特別会計	6138		6114		全員賛成により可決
介護保険特別会計	9億8639		9億8096		全員賛成により可決
後期高齢者医療特別会計	1億4561		1億4502		賛成多数により可決
土地取得特別会計	0		3億4557		全員賛成により可決
水道事業会計	収益的収入	3億8838	収益的支出	3億2692	全員賛成により可決
	資本的収入	5億518	資本的支出	6億1440	
下水道事業会計	収益的収入	4億8568	収益的支出	4億7894	全員賛成により可決
	資本的収入	2億4927	資本的支出	4億1546	



来春完成予定のラウンドアバウト

中心核整備事業等

主なものとして、交流・文教ゾーン造成・道路工事の普通建設事業に約9億円、竜王小学校建設事業に約5億円である。
(P.8に小学校建築工事の写真あり)



また値上げ、また値上げ 私たちの暮らしは

物価高騰支援 まだまだ続く

定額減税を実施し、併せて減税しきれない方への調整給付金事業を実施。また、住民税非課税世帯に対する現金給付を実施。

竜王町祖父川公園開園

総務産業建設常任委員会は9月9日に所管事務調査を行い、竜王町祖父川公園のあり方について説明を受けました。



竜王町祖父川公園整備の維持管理と利用方法は

竜王町祖父川公園はグラウンドゴルフ場および広場として整備された公園である。

●芝生維持管理業務について

業務名：竜王町祖父川公園芝生維持管理業務

委託期間：令和7年5月19日

～令和10年3月31日

委託料：合計1997万6千円（3年間）

（内、令和7年度698万4千円）

委託内容：芝生維持管理 9,800㎡
（芝刈り、目土散布、エアレーション
〈通気性と水はけ〉、施肥、灌水）



薬師地先の祖父川公園

●公園の利用方法は

対象者：個人及び団体（町内外不問）

利用方法：事前許可申請および問い合わせは竜王町教育委員会事務局生涯学習課まで

休園日：毎週木曜日および年末年始



主な質疑応答

問 駐車場は何台駐車可能か。

答 約10台～15台程度が駐車可能である。
近隣住民への影響を考え、駐車台数を超える場合は乗合わせ等の工夫をお願いしたい。

道の駅を中心とした観光振興を推進

7月31日に道の駅を拠点とした農業・観光振興のまちづくり推進のため、先進地である岐阜県郡上市道の駅「古今伝授の里やまと」を視察しました。

「稼げる第三セクター」を目指し、市独自の取組みである和歌文化を「古今伝授の里づくり」として発信し、サービス提供拠点を整備することで交流文化の拡大や文化振興による経済の活性化が図られ、多角的な経営が行われている。

「やまと温泉やすらぎ館」豊富な種類の温泉、「くつろぎ広場」農産物の加工・販売所や複数のレストラン等がある。



総務産業建設常任委員会視察研修

本町では、これらを参考に果樹狩り体験等竜王町独自の良さを活用し、強みを生かした取組みを住民一体となって推進できればと考える。

「こども誰でも通園制度」来春より開始！

教育民生常任委員会は9月9日に所管事務調査を行い、竜王町こども誰でも通園制度（乳児等通園支援制度）について説明を受けました。

1. 「こども誰でも通園制度」とは？

保護者の就労有無や理由を問わず、生後6ヶ月から3歳未満の未就園児が保育施設を利用できる制度である。

2. 「こども誰でも通園制度」に期待される効果

①子ども育ちの応援

同世代の子どもとのかかわりを経験し、
成長発達の機会を提供する。

②不安・孤立感の解消

保護者が育児の悩みを保育士に相談する。

③育児の負担軽減

子どもを預け自分の時間を作ることで、用事を済ませたり、気分転換にもつながる。



3. 制度の実施概要

- ・対 象 者：生後6ヶ月から3歳未満の未就園児
- ・実 施 場 所：竜王こども園
- ・利用料金（案）：300円／時間
- ・利用定員（案）：3名／日
- ・利用曜日（案）：水・木・金曜日
- ・利用時間（案）：午前中（9時から正午まで）
- ・利 用 方 法：利用申請→総合支援システム登録→
初回面談→利用予約（システム日程確認）→
利用当日 必要なものを持参し登園→退園時に利用料支払



竜王こども園で実施予定

4. 今後のスケジュール

- 令和8年3月 「広報りゅうおう」にて周知、利用申請受付・面談申し込み開始
4月1日 面談開始
4月2日 利用申し込み開始

5. 竜王町での利用者アンケート調査結果

回答者：0歳から2歳の保育所に通園していない児童の保護者 32名

結 果：利用希望する21名（66％）／利用希望しない11名（34％）

主な質疑応答

問 アンケート調査結果では制度利用希望者が21名（66％）との結果に対し、利用定員が1日3名では足りないのではないかと。

答 今年度、先行実施された米原市の実際の制度利用者が1日10名程度であった。人口規模等を考慮し、本町は1日3名としてスタートするものである。その後の状況を見ながら対応していきたい。

進む 竜王小学校の建築

地域活性化特別委員会は9月10日に所管事務調査を行い、交流・文教ゾーン整備の進捗状況について説明を受けました。

● 竜王小学校建築工事は

建築工事が進む竜王小学校は令和8年9月開校に向け工事が進められている。



10月1日現在の様子

災害発生時、議員の対応は

議員改革特別委員会は7月28日と9月10日を行い、議会改革の諸事案について報告と議論を行いました。

竜王町議会業務継続計画（BCP）の決定

この計画は、大規模災害などの非常時においても、議会が迅速な意思決定と多様な住民ニーズを反映し、議会としての維持機能を図るための計画である。

今後我々議員は、非常時は本計画に基づいて行動する。



町政 ここを問う!

9月定例会では11議員が23問の一般質問を行いました。

一般質問とは、議員が町長などの執行機関に対し、事務の執行状況や将来の方針などについて所信や疑問を質し報告や説明を求めることです。

ページ	質 問 者	質 問 事 項
10	山田 義明	・「まちづくり住民懇談会」での意見への対応は
	磯部 俊男	・令和7年度全国学力・学習状況調査結果を受けて
11	鎌田 勝治	・重点施策プロジェクトの進捗は ・町ホームページ情報の鮮度アップを
12	大橋 裕子	・竜王町における学校での防災教育は ・家庭教育支援事業の今後は
13	三宅 政仁	・町内で多発する声掛け事案への行政の対応は ・中学生自転車通学の指導結果は
14	橘 せつ子	・竜王町のこれからの介護事業は ・低所得者等へのエアコン購入費用の助成を ※チョイソコリゅうおうを使いやすく ※聞こえのフレイル予防を ※排外主義・排他主義的な言動への認識は
15	森島 芳男	・多文化共生の推進を ・スポーツ少年団の維持・活性化を
16	若井 政彦	・改めて問う、物価高騰対策は ・中心核整備計画の見直しは ※河川の減災対策は
17	澤田 満夫	・行政の中心地としての景観と機能向上は ・豪雨対策調整池の平常時の活用方法は
18	内山 英作	・地域交通の充実で目指す暮らしは ・これからの自治組織のあり方は
19	中村 匡希	・チョイソコリゅうおうの今後は

※紙面の都合上、掲載しておりません。

QRコードから、全ての質問がお聴きいただけます。

次回の一般質問は

令和7年12月17日(水)予定

※日程は変更になる場合があります。

※議員の質問順は町ホームページでご確認ください。

各議員のQRコードを
スマートフォンで読み
取ると音声配信が聴け
るよ



近江うし丸

問 議会事務局 電話 0748-58-3713

問 「まちづくり住民懇談会」での 意見への対応は

答 後期計画に向けて改善を図る



やまだ よしあき
山田 義明 議員



着々と工事が進む交流・文教ゾーン

答
① 小学校の開校遅れは残念だが、これ以降の施設は遅れの無いよう進めてほしいとの意見が

問 第6次竜王町総合計画の後期基本計画策定に向けての住民懇談会で出された意見について問う。
① 中心核整備事業や財政計画への対応は。
② 町的美観や異臭への対応は。
③ 人口減少や若者定住への対応は。

② 若い世代の参加者から住宅地の確保や小学校の通学についての意見があり、住宅環境や地域交通の充実についても、後期計画へ再度明記する。

ある。町債の返済については、財政シミュレーションを示し、議会のチェックを受けている。
② 日常の生活環境についての不満や不安の意見もあり、若者定住の観点も含め改善を図っていく。

問 令和7年度全国学力・ 学習状況調査結果を受けて

答 成果と課題をもとに今後の取組に活かす



いそべ としお
磯部 俊男 議員



徹底反復学習の様子

答
① 小学校では全国平均より国語が3.2、算数では5.0、理科が3.9ポイント上回り。中学校では国語が3.3、数学が4.3ポイント下回った。
② 小学校では「タブレットなどを活用すると、友だちと考えを共有したり、比べたりしやすい。

問
① 令和7年度全国学力調査の小・中学校での正答率は。
② 令和7年度全国学習状況調査結果は。

「家庭学習時間」については、小中学校ともに全国平均を下回っている。また、読書時間も少ない傾向にある。これらの成果と課題をもとに、今後の取組に活かす。

くなる」と感じる児童が増えている。
中学校では「先生は生徒のよさを認めてくれている」「困りごとや不安があるときに大人に相談できる」と回答した生徒が増加しており、生徒への丁寧な対応ができている成果と考えられる。



かまだ 鎌田 かつじ 勝治 議員



問 重点施策プロジェクトの進捗は

答 一定の成果をあげたが
新たな課題に継続して取り組む

員と話し合
て、民生委
制にくわえ
相談支援体
では、総合
くりについ
い仕組みづ
が埋もれな
っている人
地域の困
備していく
加体制を整
修等への参
くりは、研
の仕組みづ
人材育成
いる。



総合相談支援の推進会議

問 重点施策プロジェクトの
①「地域共生社会の実現に向けた総合相談支援体制の推進」、
②「学び力向上をめざした学習活動の充実」のそれぞれの実績・課題・進捗は。

答 ① 予定した会議や研修は実施したが、一部職員
のスキルアップにとど
まり、職員の育成が課
題となつて
いる。

う場を設けている。
② 授業改善、徹底反復学
習、端末の活用 of 各項
目で一定の成果をあげ
た。先生への意識付け、
学習支援ソフトの活用
と工夫が課題となつて
いる。
また、児童生徒が主
体的に課題解決する授
業作りに注力するも、
授業の振り返り時間の
確保が不十分である。

答 ① 内容の精査や見せ方の
工夫に時間を要してい
るのが主な理由である。
② 概要版だけでも速やか
に更新するなど改善で
きる点もあると認識し
ている。
③ 各課からの情報を未来
創造課の担当者でまと
めて掲載する。
④ 各課に情報発信担当者

問 重点施策プロジェクトの掲載に関して、
次の5点を伺う。
① 8月末時点で更新で
きていない理由は。
② この実態への受け止
めは。
③ 情報更新の手順は。
④ 各課の情報発信担当
者は機能しているか。
⑤ 今後の対応は。

問 町ホームページ
情報の鮮度アップを
答 各課で編集可能なシステム導入を検討

を配置できていない。
⑤ 町ホームページを各課
うまく機能していない
ので、体制を検討中で
ある。
で編集できるシステム
導入を検討したい。



竜王町ホームページ

**問 竜王町における学校での
防災教育は**

答 様々な災害を想定した訓練を体験的に学べるよう工夫する



おおはし ゆうこ
大橋 裕子 議員

答

① ことも園は毎月、小中学校では学期毎に体験的な避難訓練を実施している。西小では学校運営協議会と連携し防災キャンプを実施している。

② 地域、学校が連携した防災教育は重要である。子ども



学校での避難訓練の様子

問 令和5年に「滋賀県学校防災の手引き」が改訂され、発達段階に応じた防災教育を重点化し、出前授業やICTを活かした授業に取り組みとしている。

①園、小、中学校での防災教育の現状は。

②地域と学校が連携した防災教育をどのように考えているのか。

③地域防災教育コーナーディネーターの必要性は。

③ 学校と地域に精通した人材を配置すること
で、防災教育が進むと見込まれるが、十分な検討が必要である。

生活安全課と連携しながら先進地での取組をもとに、仕組みづくりや配置について研究していく。

答 ① 継続的な取り組みにより、地域内に支援ネットワークが構築され支援を届ける体制が整ってきた。

② サポーター連絡会や家庭教育研修会などの事

問 家庭教育を行う上で、支援が届きにくい家庭へ、地域全体で支える事の必要性が高まっている。

町では令和4年4月に県のモデル事業として、子どもを入口に家庭の困りごとを必要部署に繋げる取り組みをした。

① 過去3年間の事業に対する評価は。

② 今年度当初から現在までの活動状況は。

③ 関係部署との連携は、

④ 今後の展開は。

問 家庭教育支援事業の今後は

答 安心して子育てができる
環境整備に努める

業を継続している。

③ 関係部署で構成する家庭教育支援運営協議会を年間２回程度開催し、連携や事業実施方針を検討、確認している。

④ これまでの成果と課題

から、持続可能な支援体制の構築を目指す。

地域全体で子育て家庭を支える仕組みづくりを進め、安心して子育てができる環境整備に努める。



教育フォーラムでの講演



みやけ まさと
三宅 政仁 議員



問 町内で多発する声掛け事案への行政の対応は

答 関係機関と連携を図り町内パトロール等を実施している



滋賀県警察が運用する公式防犯アプリ「ぼけっとポリスしが」

①児童の下校時間帯に地域安全啓発パトロール車による巡回や子ども

問 声掛け事案とは、子どもや女性に対して理由なく話しかけて不安にさせるような行為である。町内で発生した声掛け事案は、令和7年の累計が9件と県内では6番目に件数が多く、凶悪事件につながることも危惧される。

②知らない人に付いていかない、車に乗らない、不審者に出会ったら大声を出す、すぐ逃げる、近くの大人に知らせることを「いかのおすし」として指導している。

また、県警の公式アプリ「ぼけっとポリスしが」では県内の不審者情報、犯罪発生情報等も発信されているため、アプリの利用を呼び掛ける。

①個別指導と、学年集会や校内放送で学校全体への指導を行っている。

②毎年4月の字別集会で生徒に指導し、約束事項として確認した上で危険箇所を明示した通学許可証を発行している。

問 令和6年第1回定例会で質問した際の答弁は、禁止区間を通らないことや警察関係者による安全教室、教員からの安全指導を行うとのことであったが、その後の経過を伺う。

①ルールを守れていない生徒へのフォローアップは。

②危険箇所の対応と指導は。

③生徒が相互に注意できる風土醸成は。

問 中学生自転車通学の指導結果は

答 日常的な指導・啓発を行っている



決められた通学ルートを通る生徒たち
(朝・夕の車両の交通量は非常に多い)

③教師からの一方的な指導ではなく、生徒会執行部が中心となり、生徒会の委員が呼びかけるなど生徒発信の取組を行っている。

今後も、生徒主体の取組を大切にし、自分ごとと捉えられるよう日常的に指導する。

問 竜王町のこれからの 介護事業は

答 事業運営の実態把握に努める



たけはな 橘 せつ子 議員



竜王町介護保険事業計画

問 長年、地域の介護を支えてきたデイサービス介護事業所が今年7月で閉鎖された。昨年は社協の訪問介護事業所も休止となっており、介護事業の後退ではと考え、次の点を伺う。

①事業所が閉鎖に至った問題点や課題をどう把握しているか。

②今後、介護を必要とする人の増加が予想されるが対策は。

③現在運営の事業所も現状を調査・把握し、運営が困難な事業所には支援はできないか。

答 ①認知症対応型デイサービスの利用料が一般のデイサービスより単価が高いこと、一般のデイサービスも受け入れ体制が整いつつあること、デイサービス事業所数の増加、また施設の老朽化等によると把握している。

②第10期介護保険事業計画では、サービスの維持確保ができる柔軟な対応を検討していく。

③本計画の策定に向け、今年度事業所のアンケート調査を実施し、事業運営の実態把握に努める。

答 エアコン購入の自己負担が厳しい生活困窮世帯の多くが生活保護対象世帯であり、生活保護制度に該当すると、エアコン購入を助成する制度があり活用できる。

光熱費等への低所得者向け支援については、国

問 エアコンのない生活は、熱中症など命の危険すら感じる状況である。エアコン設置はもとより、故障等による急な高額出費は大きな負担となる。

低所得者や非課税世帯の特に高齢者や障害者への設置・更新費用の助成をするべきと思うが、考えを伺う。

また、電気代など光熱費への支援も必要では。

問 低所得者等への
エアコン購入費用の助成を
生活保護制度には助成制度がある

の動向を見て各市町村で実施が決定次第、迅速に対応する。



助成が望まれるエアコン購入費用



もりしま よしお
森島 芳男 議員



問 多文化共生の推進を

答 異文化理解を深めていく



ポケットーク（多言語翻訳機）で窓口対応中

答 コミュニケーション支援として多言語翻訳機を導入し、役場窓口等で日本語でのコミュニケーションが困難な外国人住民への対応を行っている。

外国人住民への支援や異文化理解を深める教育が不可欠であり、行政・民間・住民の連携が重要である。

問 第六次竜王町総合計画では「外国人住民や来訪者が過ごしやすいよう、多文化共生のまちづくりを進めることが必要です」とあるが、多文化共生のまちづくりの現状を伺う。

また、こども園においては、絵本、うた、あそびを通じて英語に触れて多様性を受け入れる心を育んでいる。小・中学校では、外国語指導助手（ALT）との交流を通じて英語力を高めている。

問 スポーツ少年団の維持・活性化を

答 町として活動の支援に努める

問 スポーツ少年団は、「スポーツを通して青少年のこころとからだをそだてる」等という理念のもと活動してきた。しかし、少子化等の影響により団員が減少しクラブの存続に影響している。そこで、次の点を伺う。

- ① スポーツ少年団の活動状況を把握しているか。
- ② 今後の活動の維持・活性化についての対策は。

答

- ① 柔道等の5団体はスポーツ少年団として、138名の団員が土・日曜日を中心に活動している。
- ② 団活動のため、町は、社会教育団体補助金を



ふれあい交流会（スポーツ少年団）

交付している。スポーツ少年団が今後も地域に根ざし、子どもたちの健やかな成長に努める。

長と地域の活力向上に寄与するよう、支援に努める。

問 改めて問う、物価高騰対策は

答 効果的な支援策ができないかと考えている



わか い まさひこ
若井 政彦 議員



物価高騰、やり繰り限界

問 6月の質問の答弁で、「現時点で対策を実施する考えはない。必要と判断した時はしっかりと対策する。」であった。今、その時ではないか。

答 物価高騰の状況は好転の兆しがなく、9月からの食料品の値上げは1400品目を超えると報道されている。これまでに安心して安定した暮らしに資するための取り組み

として、当初予算において、子どもの医療費無償化、学校給食の無償化等に約1億1千万円を計上している。

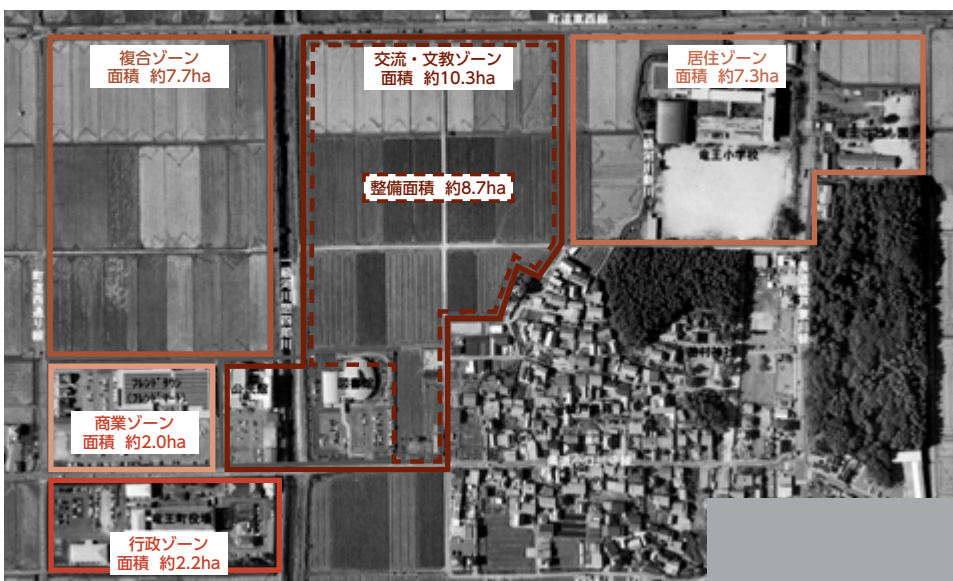
6月の補正予算においては、令和6年分所得税を定額減税しきれなかった人に調整交付金を6200万円給付した。様々なご意見も聞きながら、国の制度等も活用し、本町らしい効果的な支援策ができないかと考えている。

問 中心核整備計画の見直しは計画どおり進めていく

問 予定されているコミュニティセンターは、その必要性に住民からも疑義が示唆されている。コミュニティセンターの取り止めや、居住ゾーン・複合ゾーンのあり方など計画を見直すべきでは。

答 現在の公民館の施設更新の検討では、更新にかかる補助金がなく、財政的な見地から課題が生じた。そのため、コミュニティセンターに公民館機能を付加する計画とした。コミュニティセンターは自治会活動の支援等にも必要な施設と考えている。

整備に際してはそれぞれに必要な機能を利用者等と共に検討する。
また、住民アンケートでは「複合ゾーンと商業ゾーン」が期待することの最上位であった。基本



どうなる？居住・複合ゾーン

的には計画通り進めていく。住民への情報発信を、行い、町民に安心していただけるよう努める。



さわだ みちお
澤田 満夫 議員



問 行政の中心地としての 景観と機能向上は

答 拡幅を県に相談する



A 庁舎側から
小口方面を見る



B 交差点から綾戸方面を見る
車道幅が急に狭くなっている

答 当該路線は通学路でもあり、商業施設等が隣接していることから、安全性や利便性の確保が必要であると考えている。

問 防災センター前の車道は、役場前に比べ幅が狭く、行政の中心地の玄関としては、景観上また機能上においても、今の形状は相応しくない。

しかし、防災センター北側の車道幅員を拡幅する場合は、町道西通り線との交差点より西側の小口方面についても一定の事業用地が必要である。当該路線の全体的な計画を考慮し拡幅の必要性を確認しつつ、県に相談する。

また、行政ゾーンの案内板については、未整備のところもあり、初めて来庁される方に対しては解り易く更新する。

問 豪雨対策調整池の平常時の 活用方法は

答 今後、提案があれば検討する

問 町内では、産業用地や住宅用地などの整備が進むにつれ、豪雨対策として調整池が整備されている。

今後、整備が進む調整池においては、本来の役割に加え、平常時においても地域の財産として、新たな機能の付加を検討すべきではないか。

答 町内には開発面積が1ha以上を対象とした場合、調整池は約30箇所あり、そのうち町管理は4箇所である。

雨水調整以外の目的で活用されているのは、滋賀竜王工業団地内の1箇所、非出水期である11月1日から翌年5月31日までの間、多目的広場として地域住民および町内企業へ勤務する方ならば



完成直後、整備されていた滋賀竜王工業団地の調整池の現況

に本町来訪者が余暇時間を快適に過ごせる場として提供している。

今後、新しく整備される調整池については、本来機能に影響のない範囲において、駐車場や広場など別の用途で有効活用されることにより住民サービスや維持管理が向上する場合は、検討していく。

問 地域交通の充実で目指す暮らしは

答 持続可能な公共交通の構築に努める



うちやま えいさく
内山 英作 議員



「未来アイデア会議」
第3回滋賀地域ワークショップの様子（彦根市）

意見交換を繰り返す『ワールドカフェ方式』で実施し、他地域の方、暮らしの異なる方等、多くの方と対話を重ねながら、地域毎に抱える課題の共有と、課題解決に向けたアイデア・意見交換をしている。

問 滋賀県は昨年度より、滋賀県地域交通ビジョンとなる「滋賀地域交通計画」の策定に着手している。そこで、本町が位置する東近江地域の地域交通の現状と課題、及び本町が目指す将来像は何か。

答 （現状と課題）

・主なものは、遅くなる
と帰りの便がないため、
通勤や遠出の外出に公
共交通を使えない。

・子どもの学校や塾への
送迎が負担である。
・福祉有償運送も利用を
断られることがある。
・運賃が高く利用しづら
いなど。

（目指す将来像）

竜王町地域公共交通計
画では、基本方針を「移
動したい人の移動目的に
あった、持続可能な移動
手段の確保」として、路
線バス、チョイソコ、マ
イカー等の3つを組み合
わせて実現していく。

問 これからの自治組織のあり方は

指定地域共同活動団体制度の可能性を注視している

令和6年9月施行
の地方自治法の改正に
より、地域課題解決の
ため、多様な主体と連
携・協働する団体を市
町村長が指定し支援す
る「指定地域共同活動
団体」制度ができた。
本町が進めている「中
間支援組織」と、この
団体との関係はどうか。

答 「中間支援組織」

は単なる行政の下請けで
なく、町の課題を共有で
き行政と連携しながら主
体的かつ継続的に取り組
んでいただける個人や団
体であるが、まだ未定で
ある。

この「中間支援組織」
が、「指定地域共同活動
団体」となる可能性もあ
るが、現時点では、まだ
選択肢の一つとして注視
している。



地域運営組織も指定地域共同活動団体



なかむら まさき
中村 匡希 議員



問 チョイソコりゅうおうの 今後は

答 利用状況により増車を検討する



現在のチョイソコ稼働率は約40%となっている

① 予約が取れないほどの利用状況になれば検討する。

問 路線バスの減便やバスのドライバー不足を踏まえて何う。
① チョイソコの増車の可能性とコストは。
② 利用者ニーズの把握状況は。
③ 近江八幡市への乗り入れは。

増車一台につき年間約1000万円のコストがかかる。
② 町の地域公共交通計画の策定時や、チョイソコ利用者の生の声を直接聞くようにしている。
③ 町外移動は基本的に路線バスへの乗り継ぎを前提としている。利用者ニーズを把握し、持続可能な公共交通体系を構築していく。

報告

第18期(後期) 竜王町議会新体制決まる

第18期竜王町議会の後期の体制は、新議長に澤田満夫議員、副議長に内山英作議員が選任されました。

あわせて、各委員会の委員が指名され、以下のとおりとなりました。



議長
澤田 満夫



副議長
内山 英作

氏名		内山 英作	三宅 政仁	若井 政彦	大橋 裕子	中村 匡希	鎌田 勝治	橘せ つ子	磯部 俊男	小西 久次	森島 芳男	山田 義明	澤田 満夫
職務	議席	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
議長・副議長・監査委員		副				監							正
議会運営委員会					○		正			副	○	○	
総務産業建設常任委員会		○		副		○				○	正		○
教育民生常任委員会			○		正		○	副	○			○	
予算決算常任委員会		○	副	○	○	○	○	○	○	○	○	正	
議会広報特別委員会			正	○			副			○	○	○	
地域活性化特別委員会			○	○			○	副		正	○		
議会改革特別委員会		○	○	副	○	○	正	○	○	○	○	○	

あらゆる子どもたちの育ちを豊かに

竜王町議会は、6月14日に子育て支援の現状と課題を理解するため、「NPO法人竜王子育てネットワーク」のみなさんと意見交換を行いました。

竜王子育てネットワークの活動

子どもたちの育やかな発達を援助するとともに保護者が安心して働ける環境づくりを支援している。

具体的活動

1. 学童保育の運営
2. 障害児者相談支援事業、支援が届いていない方への相談支援
3. 子どもたちの育ちを保障する地域総動事業
子どもたちと住民の連携等を通して、子どもの居場所を提供
(林の「ひだまり学舎」を中心拠点に町内で活動)



懇談会を通じて(参加議員の感想)

1. 子どもを取り巻く環境が大きく変わり、大人や地域との関わりが希薄になっている。
2. 妊娠期から、乳幼児、学童時、思春期と成長していくにつれ参加できる事業が増えており、切れ目なく多角的に支援をして頂いていることに感謝する。
3. 具体的課題も多数あったが、未来を担う子どもたちへの支援は、私たち大人の責務であると改めて実感した。
4. 今後は、法人の皆さんの意見を聞きながら議会としてできることを進めて行きたい。



見事3位に入賞した滋賀県成年女子チーム

表紙

歓声が 背中を押す

「わたS H I G A 輝く国スポ2025」のスポーツクライミングが10月3～5日に竜王町総合運動公園で開催されました。リード・ボルダーの両種目が行われ、会場は子どもたちの歓声に包まれました。『子どもたちの歓声でまちの前進』の思いのもと、議会は町のルートの提案とチェックの両輪で、まちの前進に取り組んでまいります。

編集後記

第18期竜王町議会議員としての前半の2年間が経過し、10月から後半に入りました。

今年も地球温暖化の影響による暑さの異常気象が7月頃から長く続き、ようやく秋の深まりを実感できるようになりました。

残り2年間は、議会の「見える化」を目標に、議会懇談会の開催、議会広報紙の充実、議員の積極的な研修会への参加による資質向上などに取り組めます。

最後に、魅力的な議会、傍聴しなくなる議会となるよう町民皆様方のご意見などありましたら、有難く存じます。

議会広報特別委員会

委員長	内山 英作
副委員長	橘 せつ子
委員	中村 匡希
委員	大橋 裕子
委員	澤田 満夫
委員	磯部 俊男



環境に配慮し、再生紙及び植物油インキを使用しています